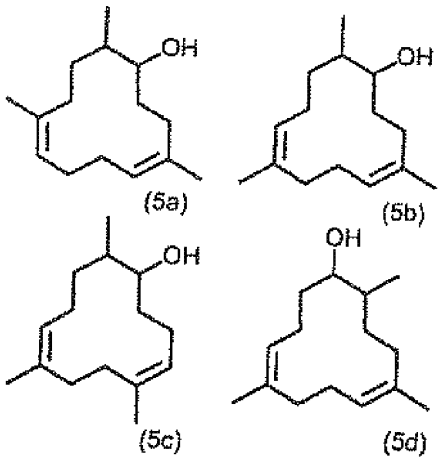
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成24年3月29日(2012.3.29)

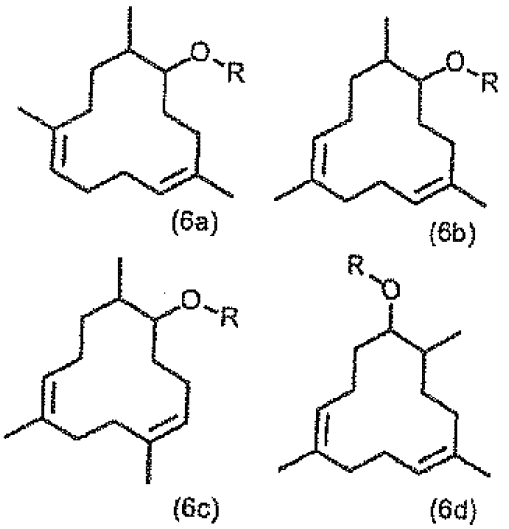
【公表番号】特表2008-527024(P2008-527024A)
【公表日】平成20年7月24日(2008.7.24)
【年通号数】公開・登録公報2008-029
【出願番号】特願2007-551699(P2007-551699)
【国際特許分類】
Ｃ０７Ｃ　35/205　(2006.01)
Ｃ０７Ｃ　29/143　(2006.01)
Ｃ０７Ｃ　41/16　(2006.01)
Ｃ０７Ｃ　43/188　(2006.01)
Ｃ０７Ｃ　41/20　(2006.01)
Ｃ０７Ｃ　43/184　(2006.01)
Ｃ０７Ｃ　45/00　(2006.01)
Ｃ０７Ｃ　49/607　(2006.01)
Ｃ１１Ｂ　9/00　(2006.01)
Ｃ１１Ｄ　3/50　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　8/34　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　8/33　(2006.01)
Ａ６１Ｌ　9/01　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０７Ｃ　35/205　ＣＳＰ
Ｃ０７Ｃ　29/143
Ｃ０７Ｃ　41/16
Ｃ０７Ｃ　43/188
Ｃ０７Ｃ　41/20
Ｃ０７Ｃ　43/184
Ｃ０７Ｃ　45/00
Ｃ０７Ｃ　49/607
Ｃ１１Ｂ　9/00　D
Ｃ１１Ｂ　9/00　G
Ｃ１１Ｄ　3/50
Ａ６１Ｋ　8/34
Ａ６１Ｋ　8/33
Ａ６１Ｌ　9/01　H

【誤訳訂正書】
【提出日】平成24年2月13日(2012.2.13)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
下記（Ａ）～（Ｅ）から選択される混合物。
（Ａ）下記の化合物５ａ、５ｂ、５ｃ、５ｄから選択される少なくとも２つの化合物の混合物

（Ｂ）下記の化合物６ａ、６ｂ、６ｃ、６ｄから選択される少なくとも２つの化合物の混合物
（Ｃ）下記の化合物６ａ’、６ｂ’、６ｃ’、６ｄ’から選択される少なくとも２つの化合物の混合物
（Ｄ）下記の化合物７ａ、７ｂ、７ｃ、７ｄから選択される少なくとも２つの化合物の混合物
（Ｅ）下記の化合物７ａ’、７ｂ’、７ｃ’、７ｄ’から選択される少なくとも２つの化合物の混合物
【化１】

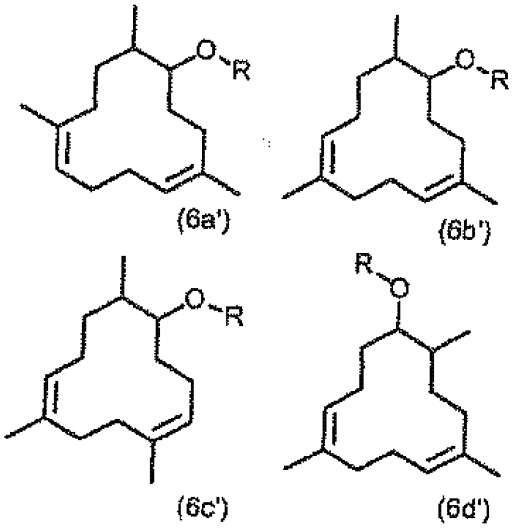


【化２】



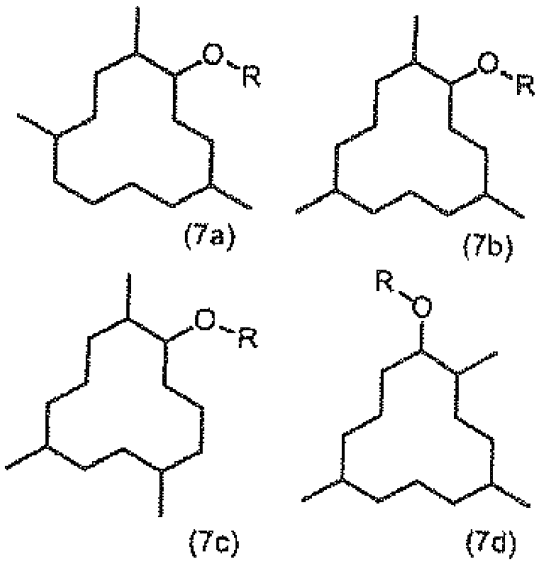
（式中、Ｒはメチル基を表す）

【化３】



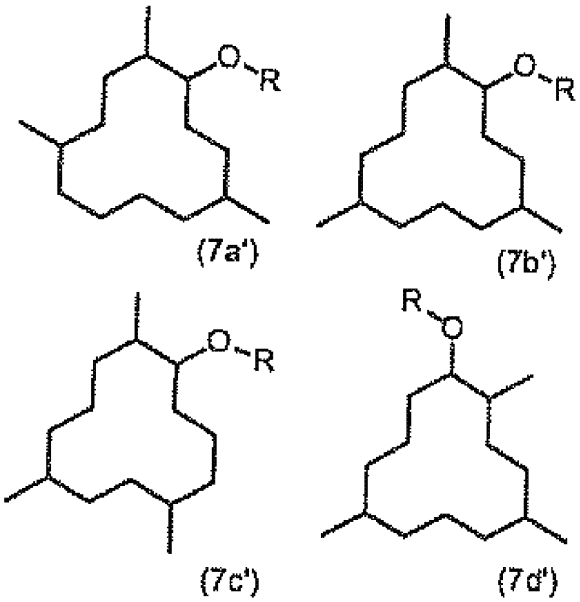
（式中、Ｒはエチル基を表す）

【化４】



（式中、Ｒはメチル基を表す）

【化５】

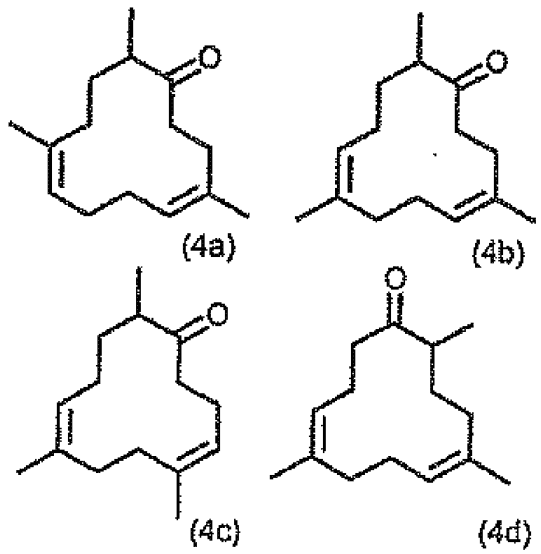


（式中、Ｒはエチル基を表す）

【請求項２】

下記の化合物４ａ、４ｂ、４ｃ、４ｄから選択される少なくとも２つの化合物の混合物（Ｆ）を還元することによって、請求項１記載の混合物（Ａ）を製造する方法。

【化６】



【請求項３】

請求項１記載の混合物（Ａ）をエーテル化することによって、請求項１記載の混合物（Ｂ）又は（Ｃ）を製造する方法。

【請求項４】

請求項１記載の混合物（Ｂ）を水素化することによって、請求項１記載の混合物（Ｄ）を製造する方法。

【請求項５】

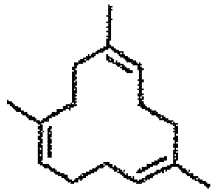
請求項１記載の混合物（Ｃ）を水素化することによって、請求項１記載の混合物（Ｅ）を製造する方法。

【請求項６】

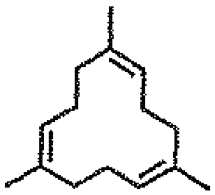
前記混合物（Ｆ）が、

－　１，５，１０－トリメチルシクロドデカ－１，５，９－トリエン（１ａ）及び１，５，９－トリメチルシクロドデカ－１，５，９－トリエン（１ｂ）からクロロニトロソ誘導

体である下記化合物２ａ、２ｂ、２ｃ、２ｄから選択される少なくとも２つの化合物の混合物（Ｇ）の形成、
－　前記混合物（Ｇ）から、オキシムである化合物３ａ、３ｂ、３ｃ、３ｄから選択される少なくとも２つの化合物の混合物（Ｈ）への変換、
－　レーニーニッケル、アセトン及びホウ酸の存在下での、前記混合物（Ｈ）の還元による前記混合物（Ｆ）への変換、
の工程によって得たものである、請求項２記載の方法。
【化７】

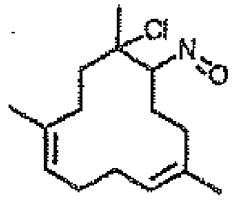


(1a)

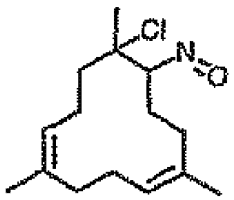


(1b)

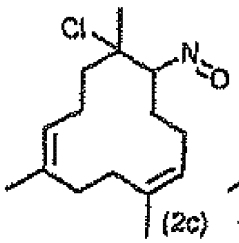
【化８】



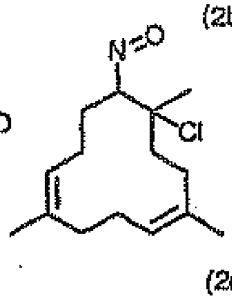
(2a)



(2b)

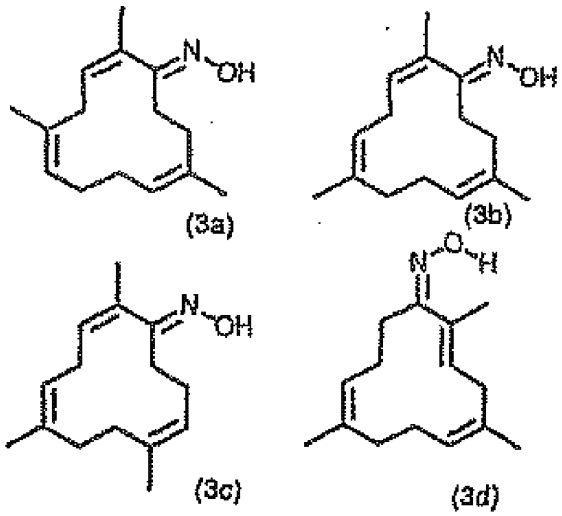


(2c)



(2d)

【化９】



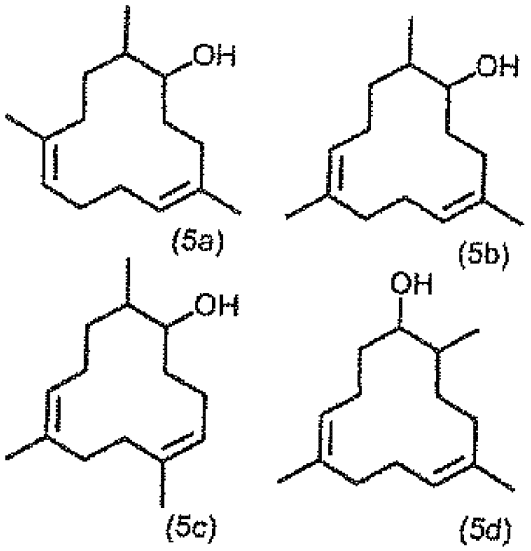
【請求項７】

ベース生成物及び有効量の請求項１記載の混合物（Ａ）、（Ｂ）、（Ｃ）、（Ｄ）、（Ｅ）から選択される少なくとも１つの混合物を含む組成物。

【請求項８】

以下の化合物５ａ、５ｂ、５ｃ、５ｄから選択される少なくとも２つの化合物の混合物を含む請求項７記載の組成物。

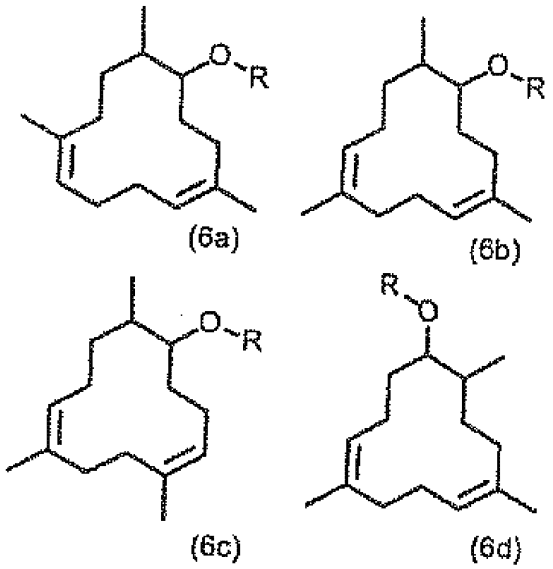
【化１０】



【請求項９】

以下の化合物６ａ、６ｂ、６ｃ、６ｄから選択される少なくとも２つの化合物の混合物を含む請求項７記載の組成物。

【化１１】

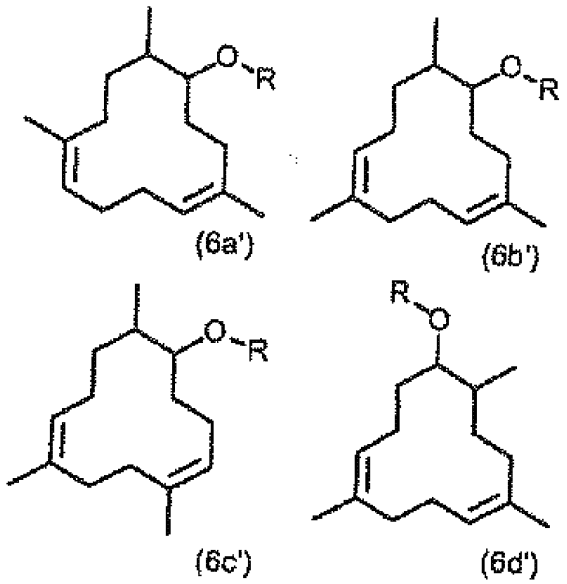


（式中、Ｒはメチル基を表す）

【請求項１０】

以下の化合物６ａ’、６ｂ’、６ｃ’、６ｄ’から選択される少なくとも２つの化合物の混合物を含む請求項７記載の組成物。

【化１２】

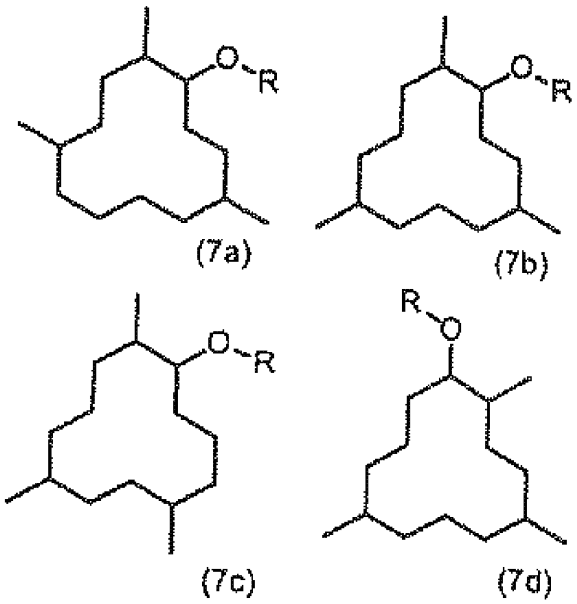


（式中、Ｒはエチル基を表す）

【請求項１１】

以下の化合物７ａ、７ｂ、７ｃ、７ｄから選択される少なくとも２つの化合物の混合物を含む請求項７記載の組成物。

【化１３】

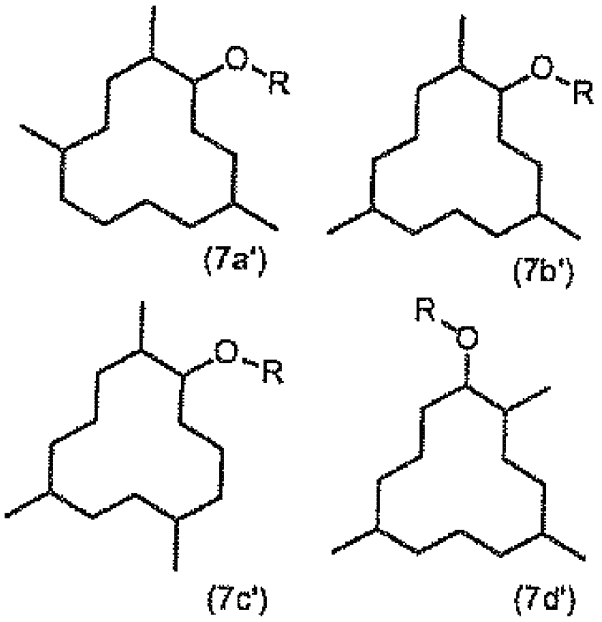


（式中、Ｒはメチル基を表す）

【請求項１２】

以下の化合物７ａ’、７ｂ’、７ｃ’、７ｄ’から選択される少なくとも２つの化合物の混合物を含む請求項７記載の組成物。

【化１４】



（式中、Ｒはエチル基を表す）

【請求項１３】

請求項７から１２で定義した組成物中に含まれる化合物の混合物が、不活性支持材料であるか又は極性溶媒、油、グリス、微粉末化固体、シクロデクストリン、マルトデキストリン、ゴム、樹脂から選択される支持材料の中又は上に設けられる、請求項７から１２のいずれか１項記載の組成物。

【請求項１４】

芳香ベース若しくはコンセントレート、オーデコロン、オーデトワレ又はオーデフレグランスであって、請求項１で定義した混合物又は請求項７から１３のいずれか１項記載の組成物を含む香料組成物。

【請求項１５】

顔用又は身体用クリーム、タルカムパウダー、ヘアオイル又はボディオイル、シャンプー、ヘアローション、バスソルト、バスオイル、シャワーゲル、バスゲル、化粧用石鹸、制汗剤、ボディデオドラント、ローション、シェービングクリーム、シェービングソープ、クリーム、歯みがき、マウスウォッシュ又はポマードであって、請求項１で定義した混合物又は請求項７から１３のいずれか１項記載の組成物を含む化粧品組成物。

【請求項１６】

洗濯用柔軟剤、洗剤、洗濯機用洗剤又は室内用消臭剤であって、請求項１で定義した混合物又は請求項７から１３のいずれか１項記載の組成物を含むメンテナンス用品。

【請求項１７】

請求項１で定義した混合物の、芳香剤、匂いマスキング剤又は匂い中和剤としての使用。

【請求項１８】

請求項１で定義した混合物を他の芳香剤と組み合わせて用いる、請求項１７記載の使用。

【誤訳訂正２】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】０００２

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【０００２】

本願明細書において「香料」の用語は、通常の語義のみならず、生成物の匂いが重要である他の分野における香料を指す場合にも用いる。それらには、香料ベース、香料コンセントレート、オーデコロン、オーデトワレ、香水などの通常の語義としての香水組成物、顔及び身体用クリーム、タルカムパウダー、ヘアオイル、シャンプー、ヘアローション、バスソルト及びオイル、シャワー及びバスゲル、化粧用石鹸、制汗剤及びボディデオドラント、シェービングローション及びクリーム、石鹸、クリーム、歯みがき、マウスウォッシュ、ポマードなどの局所用組成物（特に化粧用組成物）、並びに洗濯用柔軟剤、洗剤、洗濯機用洗浄剤、室内用消臭剤などのメンテナンス用品が含まれうる。

【誤訳訂正３】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】００３８

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【００３８】

本発明はまた、具体的には、少なくとも１つの式（Ｉ）の化合物を含んでなる、又は少なくとも１つの式（Ｉ）の化合物を含む少なくとも１つの組成物を含んでなる、化粧用組成物、特に顔用又は身体用クリーム、タルカムパウダー、ヘアオイル又はボディオイル、シャンプー、ヘアローション、バスソルト、バスオイル、シャワーゲル、バスゲル、化粧用石鹸、制汗剤、ボディデオドラント、ローション、シェービングクリーム、シェービングソープ、クリーム、歯みがき、マウスウォッシュ又はポマードに関する。

【誤訳訂正４】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】００４４

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【００４４】

本発明はまた、具体的には、少なくとも１つの式（Ｉ）の化合物を含んでなる、又は少なくとも１つの式（Ｉ）の化合物を含む組成物を含んでなる、化粧用組成物、特に顔用又は身体用クリーム、タルカムパウダー、ヘアオイル又はボディオイル、シャンプー、ヘアローション、バスソルト、バスオイル、シャワーゲル、バスゲル、化粧用石鹸、制汗剤、

ボディデオドラント、ローション、シェービングクリーム、シェービングソープ、クリーム、歯みがき、マウスウォッシュ又はポマードに関する。
【誤訳訂正５】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００５０
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００５０】
＜トリメチルシクロドデカジエノール（５ａ～５ｄ）の合成＞
トリメチルシクロドデカジエノン（４ａ～４ｄ）１２４．８ｇ（０．５７ｍｏｌ）及びエタノール３９０．０ｇを、温度計を備えた２Ｌの平底フラスコに充填した。混合物を５℃まで冷却し、バルク温度が１０℃を越えないように、１０．７ｇの水素化ホウ素ナトリウムを徐々に添加した。この温度で混合物を４２時間撹拌した。この工程中に水素化ホウ素ナトリウムの付加的な量を添加した（６時間後５．３ｇ、２４時間後１０．１ｇ及び３６時間後５．３ｇ；使用した水素化ホウ素ナトリウムの総量：３１．４ｇ（０．８６３ｍｏｌ））。アセトン７９．０ｇ（１．３６ｍｏｌ）を、バルク温度が１０℃を越えないように滴下して添加し、過剰な還元剤を除去した。バルク温度が１０℃を越えないように、反応混合物に１０％塩酸５００．０ｇを添加し酸性化した。更に水８００ｇ、次いでトルエン３４４ｇを激しく撹拌しながら添加した。層分離させ、有機層を水２００ｇで３回、塩水２００ｇで１回洗浄した。得られた有機層を乾燥し、濾過し、バルク温度が５０℃を越えないようにしながら減圧下（４０ＨＰａ）でトルエンを蒸発除去した。蒸留後、トリメチルシクロドデカジエノール（５ａ～５ｄ）６９．６ｇ（０．３１ｍｏｌ）を得た（沸点：９８～１００℃／０．２ＨＰａ）。収率は５５．３％であった。ＩＲ、ＮＭＲ及びＭＳ分析の結果、予想される化合物の構造と一致していた。
【誤訳訂正６】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００５２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００５２】
＜エトキシトリメチルシクロドデカジエン（６ａ’～６ｄ’）の合成＞
トリメチルシクロドデカジエノール（５ａ～５ｄ）２８．９ｇ（０．１２ｍｏｌ）及び硫酸ジエチル２０．４ｇ（０．３６ｍｏｌ）を用い、実施例５の記載と同様にしてエトキシトリメチルシクロドデカジエン（６ａ’～６ｄ’）を合成した。エトキシトリメチルシクロドデカジエン（６ａ’～６ｄ’）１８．２ｇ（０．０７ｍｏｌ）を得た（沸点：１０５／１０８℃／０．２ＨＰａ）。収率は６２．７％であった。ＩＲ、ＮＭＲ及びＭＳ分析の結果、予想される化合物の構造と一致していた。